

2023 年度 (令和 5 年度) 学校評価自己評価表

鳳中学校区	校番 11	福山市立鳳中学校
最終更新日		2023年(令和5年)10月27日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 各学校が特色ある教育活動を推進しており、活動のねらいや内容も明確となっている。今後も学校と地域がより連携し地域の教育力を活かしながら児童生徒の主体的な探究学習を推進してほしい。具体的には地域人材を活用したり、児童生徒が地域貢献をしたりする教育活動を継続してもらいたい。	児童生徒の現状 ・児童生徒は地域への愛着があり、地域の方々との交流や地域貢献活動に意欲的に取り組むことができる。 ・必要な情報を読み取り問いや相手に応じて適切に表現することに課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	思考力・表現力 人とかかわり 「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。」 ・論理的に考え、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見を主張することができる。 ・他者や集団のために、自ら考え、主体的に行動できる。 ① 児童生徒が必要な情報を読み取り適切に表現する「学びづくり」の推進 ② 自尊感情の高揚へつなぐ「クリーンプロジェクト」の推進 ③ しなやかな心とからだの育成をめざした「生活・体力向上アンケート」実施・分析
---	---	---	--

III 自校

ミッション 公教育の使命をふまえ、自律的に改善・挑戦し続ける創造的な教育活動を行うなかで、常に成果を示し、家庭・地域の信頼に応えきる学校を創造する。	学校教育目標 翔び立つ 「自己の夢や目標の実現に向け、自らを律しつつ、果敢に挑戦しつづける生徒」	現 状 ＜児童生徒＞ ・相手を思いやり、相手の立場に立って、「感じ」、「考える」ことには、一定の成果があるものの、日常生活の中の言動の中では課題が見られる。 ・主体的に学びに向かい、意欲的に表現し、豊かに生きるための「思考力・表現力」、他者を理解し関わる力を育てたい。 ・人としての思いやりの心の育成を図り、生徒の内面を耕す取組を行い、共感する力や協力し合う態度を育てていく必要がある。 ＜授業＞ ・各教科等について課題解決に向けて、問いを大切に授業を実践することができている。 ・「資質・能力」を育むための授業改善を図るため日頃の授業において学習活動の質の向上を図る必要がある。 ・「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」を動かせる授業展開の工夫に課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 恩・表・人 「思考力・表現力」 「人とかかわり」(他者を理解しかかわる力) ・他者の考えを尊重しつつ自らの意見を主張することができる。 ・自己の学びをマネジメントできる。 ・TPOを意識して行動することができる。 ・他者や集団の為に自ら考え主体的に行動できる。	研究 テーマ 「学びをマネジメントし、主体的に学ぶ生徒の育成」 内容等 主体的・対話的で深い学びの実現を通して、生徒自らが学びをマネジメントしていく力を育む。	めざす授業の姿 ・学びを深める問いがある授業(生徒自身がわくわくする問いがある) ・学びの交叉がある授業(個人で考えたことを集団で交流する活動がある) ・学びの転換がある授業(比較・分類・整理等により、調整し、異なる考えやよりよい表現に気づくことができる思考場面がある) ・学びの結節がある授業(単元を通して考えたことを集めて節とするように問いに対する自分の考えをまとめて確かめる思考場面がある)
---	--	--	---	---	--

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立鳳中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%未満	達成	改善方策	□指標に係る取組状況	70%未満	達成	総合評価	改善方策
3	主体的に学ぶ生徒の育成	★	継続見直	「学びの深化」を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究により①～④のある授業を実践する。</li> <li>①学びを深める問いの工夫</li> <li>②個人と集団思考の場の設定</li> <li>③異なる考えに気づいたりよりよい表現を選択したりできる思考場面</li> <li>④単元を通して考えたことをまとめたり確かめたりする場面</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～④のある授業80%以上</li> <li>関連項目の生徒・教師のアンケートの肯定的回答を80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科担当が教材研究により①～④のいずれかのある授業を実践した。</li> <li>①学びを深める問いの工夫について →解決には交流が必要な問いを設定した。(国語) →なぜ学習するのかを考えさせて鑑賞をした。(音楽)</li> <li>②個人と集団思考の場の設定について →既習の知識を生かした課題解決の場を設定した。(数学) →個人でデザインを考え、全体で交流した。(美術)</li> <li>③異なる考えに気づいたりよりよい表現を選択したりできる思考場面について →帯タイム small talk の中で、よりよい表現や適切な発話を思考させ、気づかせた。(英語)</li> <li>④単元を通して考えたことをまとめたり確かめたりする場面について →単元で学んだことを地域の紹介文やスライドにまとめた。(社会)</li> <li>→自分の動きと他者の動きを比較し自分の動きの成果と課題をレポートにした。(体育)</li> <li>「授業で課題を解決するために、自分で決めたやり方で解決に向かって取り組んだ」と肯定的に評価する生徒は、<b>87.5%で達成値は、109</b>となった。</li> </ul>	4	4	現在取り組んでいることを継続し、各教科での今後の変容を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>□指標に係る取組状況</li> <li>◎長期中期経営目標の達成状況</li> <li>①学びを深める問いの工夫→「仲間と話し合ったり教え合ったりすることで自分の学びが深まっていると感じる」<b>97%で達成値は121</b>となった。</li> <li>②個人と集団思考の場の設定→「授業で友達のを聞いてたり友達と話し合ったりすることが楽しい」<b>94%で達成値は118</b>となった。</li> <li>③異なる考えに気づいたりよりよい表現を選択したりできる思考場面→「授業で自分の考えを理由を明らかにして相手に分かりやすく伝えるように工夫している」<b>91%で達成値は113</b>となった。</li> <li>④単元を通して考えたことをまとめたり確かめたりする場面→「課題を解決するために自分で決めたやり方で解決に向けて取り組んでいる。」<b>94%で達成値は117</b>となった。</li> </ul>	4	4	4	現在取り組んでいることを継続して仮説検証する。各教科・総合等の授業交流を定期的に行い、教員間の意見交流を活性化を行う。学期ごとに授業の変容や重点を交流し、より効果的な取り組みについて実践研究を進める。
3		★	継続見直	「学びの環境」を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間を中心とした地域社会とつなぐカリキュラムを創意工夫する。</li> <li>生徒一人一人の目標設定・振り返りを積み重ね、生徒自身のマネジメント力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連項目の生徒アンケートの肯定的回答を70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献活動の中心的な役割を担っている3年生のアンケートでは、「私は学校での学びと地域とのつながりを意識しています。」75.7%で達成値は、108となった。</li> <li>「私は、学習内容の理解できている所と、理解できていない所を振り返りながら、自分の勉強の計画を立てています」80%で達成値は、114となった。</li> </ul>	4	4	各教科・総合・特活において「学習」と「ふりかえり」をプランニングさせる機会を意図的に仕組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「私は学校での学びと地域とのつながりを意識しています。」<b>77%で達成値は、110</b>となった。</li> <li>「学習内容の理解できているところと理解できていないところを振り返りながら自分の勉強の計画を立てている」<b>89%で達成値は127</b>となった。</li> </ul>	4	4	4	生徒が見通しを持って学習をプランニングし、経過の振り返りや調整を繰り返しながらマネジメント力を育てることができるよう総合等のカリキュラムを修正・実施する。
3	自己肯定感の高い生徒の育成	★	継続	「学びの土台」をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身がアンケート結果等により学級の状況を把握し良さを自覚し改善目標に取り組みできるようにする。</li> <li>情報モラルについて考える時間を学期に1回設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身による学級状況の把握改善取組の実施100%</li> <li>情報モラル学習時間を学期1回実施</li> <li>関連項目の生徒アンケートの肯定的回答を80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級力向上プロジェクトの取り組みにより「学級力9項目」(改善・協力・役割・構え・仲間・成長・挨拶・掃除・身だしなみ)について生徒自身が学級状況を把握し改善取組を実施した。</li> <li>外部講師を招聘(リモート)し、全校で情報モラルについて考える授業を設けた。</li> <li>「私は、課題を解決するために、自分で決めたやり方で解決に向かって取り組んだ」と肯定的に評価する生徒は、87.5%で達成値は、109となった。</li> </ul>	4	3	現在取り組んでいることを継続し、今後の変容を見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連項目の生徒アンケートの肯定的回答「私には、自分を認めてくれる仲間がいます」<b>95%で達成値119</b>となった。</li> <li>「課題を解決するために自分で決めたやり方で解決に向けて取り組んでいる。」<b>94%で達成値は117</b>となった。</li> </ul>	4	4	4	生徒自身が自分や集団の状況を把握し課題にチャレンジすることで自己肯定感を高めることができるよう取組を継続し、変容に対する自己評価や相互評価を柔軟におこなっていく。
4	運動に親しむとともに体力向上をめざす生徒の育成		継続	逞しい生徒を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストにおける個人内評価の分析と活用方法を工夫する。</li> <li>日常的に運動に親しむ習慣をつける体育的行事を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストにおいて、県平均以上の種目数を前年度より増やす</li> <li>関連項目の生徒アンケートの肯定的回答を80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年男女別で県平均を上回った項目は<b>15/48</b>であった。(前年度は<b>25/48</b>)</li> <li>「週3日以上スポーツをしている」と回答した生徒は、<b>66.2%</b>で全国平均を下回っている。(前年度は52%)</li> </ul>	3	2	自己の新体力テストの結果を分析させ、結果を向上させるためのトレーニングメニューを考え、実施させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「運動やスポーツをすることが『すき』、『ややすき』と答える2年生男子生徒の割合が84.3%で達成値は105となった。女子生徒の割合が75.4%で達成値は94となった。</li> </ul>	3	3	3	運動が楽しいと感じ体力向上につながるトレーニングメニューを年間を通して継続的に実施する。

4	地域・保護者から愛され、信頼される学校づくり	継続	地域・保護者の満足度を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭連携・迅速な対応を行う。</li> <li>タイムリーで丁寧な情報発信を行う。</li> <li>自治連合会との情報連携を定期的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動・情報発信に係る保護者アンケートの肯定的回答を90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭連携・迅速な対応を行った結果、保護者アンケートの肯定的評価 96.7%で達成値は、107 となった。</li> <li>メール配信、HP、各種たよりを通じて保護者・地域の方々のニーズに合った情報を適切に発信している。</li> <li>七日会や街づくり推進委員会で学校だより等を活用し学校の様子を口頭にて毎月、報告した。また、地域・保護者の声を教育活動にいかす取り組み(地域貢献活動等)を行うことができた。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な対応やHPや各種たよりを通して適切な情報発信に努める。</li> <li>地域の教育力を活かした教育活動の創造に向け連携を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「子供を通わせてよかったと思っている」<b>98%で達成率 108</b></li> <li>「親身になって子どもの悩みや保護者の相談にのってくれる」<b>92%で達成率は 102</b></li> <li>「各種通信等で学校の情報を発信している」<b>94%で達成率は 104</b></li> <li>保護者・地域との連携を様々な手段を活用し継続して行っていることを肯定的に評価されている。</li> </ul>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、保護者や地域へ向け生徒の様子や学校の取組がタイムリーに伝わるよう適切な情報発信を行う。</li> <li>保護者や地域から幅広い意見を収集し、地域の教育力を活かした教育活動を継続する。</li> </ul>
4		継続見直	校区共通の課題改善を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携組織を見直し情報共有・取組がスムーズなシステムを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケートの関連項目の肯定的回答80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区校長会や推進委員会・部会リーダー会を計画的に実施し、活動計画を見直し、年4回の校区研修の充実に向けて取り組むことができる。</li> <li>「生徒の学びや発達への理解をもとにカリキュラムを見直し、実践している。」と肯定的評価の教職員は93.3%で達成値は、117 となった。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>3校が共通課題の改善に向け、成果課題を整理し、情報を共有して取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「一斉研修の内容は日々の授業に生きるものになっている」<b>86.7%で達成率は 108</b></li> <li>「具体的な場面から「学ぶ」ということについて理解を深める校内研修を行っている」<b>93.3%で達成率は 116</b></li> </ul>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究、課題別部会、小中連携教科部会等により、児童生徒の実態や学習内容等の相互理解を深め、3校が共通課題の改善に向け取り組めるような研修を実施する。</li> </ul>
4		継続見直	業務改善によりやりがい達成感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「業務の見える化」を工夫し計画的に効率よく業務に取り組めるようにする。</li> <li>教材研究・生徒交流により、教職員としてのやりがいや達成感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連項目の教職員アンケートの肯定的回答を80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「困ったときに相談できる人材がいる」と肯定的評価の教職員は、100%で達成値は、125 となった。</li> <li>「人はどのように学ぶか、何につまづくかについて関心をもち、教材研究を行っている」と肯定的評価の教職員は、93.3%で達成値は、117 となった。</li> <li>「生徒に対してじっくり話を聞き、考える手助けができています」と肯定的評価の教職員は、93.3%で達成値は、117 となった。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「業務の見える化」を進め、日常的な業務改善に取り組む。</li> <li>業務を計画的、効率的に取り組め進捗状況が把握できるように継続的に改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「困ったときに相談できる人材がいる」と肯定的評価の教職員は、<b>100%で達成値は、125</b></li> <li>「人はどのように学ぶか、何につまづくかについて関心をもち、教材研究を行っている」と肯定的評価の教職員は、86.7%で達成値は、108</li> <li>「生徒に対してじっくり話を聞き、考える手助けができています」と肯定的評価の教職員は、86.7%で達成値は、108</li> </ul>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も「業務の見える化」により、日常的な業務改善に取り組む。</li> <li>リーダー会、分掌会の工夫により、業務を計画的、効率的に取り組める組織づくりを行う。</li> </ul>

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。